【実施区域・面積】

熊本県、8.2ha

【生態系タイプ】

二次草原・草地

【実施区域の状況】

阿蘇くじゅう国立公園の第3種特別地域内に位置し、阿蘇山南麓に広がる草原の一角にある。

長年にわたって地域住民により草原が維持されてきた場所であるが、近年の地域住民の高齢化等により、その維持が困難になってきている。当団体は、この草原の活用を目指し、新たな草原を活用した産業として「羊」の放牧を実施しており、本サイトでも2021年から放牧を行っている。放牧のために野焼きをはじめ様々な草原管理を実施しており、その結果、多様な植物が生育する環境として維持されている。

またサイト全体に、斜面・尾根部・谷部といった地形のバリエーションがあることで、多様な植物が生育しており、絶滅危惧種に指定されている草原性の植物がみられる。

【目標】

本サイトには、複数の絶滅危惧植物が生育していることが確認されている。これらの多くは草原性の植物であり、草原を保全するためには毎年の人為的管理（野焼き・採草など）が必要とされる。

これらの植物を保全するため、羊の放牧・野焼き・茅切を行うことで、草原環境を維持していく。

【主な活動内容】

毎年、本サイトを含めた周辺一帯の野焼き作業を牧野組合と共に行っている。野焼きを継続して行っていくとともに、野焼きの防火帯として機能するように羊の放牧エリアを配置・管理していくことで野焼き作業の負担軽減を図っていく。

【モニタリング計画】

草原性草本類、及び記録の必要がある動物種を対象として、調査ルート上においてモニタリング調査を実施。調査地の植物相の調査を植物の生育時期にあわせて6月、8月、10月の年3回実施する。

【実施体制】

阿蘇さとう農園が、年間を通して、牧野組合等と協力して草原の管理を行っていく。専門的な調査に関しては専門機関に調査協力を依頼する。





【計画期間】

2025年９月～2030年3月